

“古代遺跡に新たな視点”(新刊書によせて)

日本先史古代研究会 会員 若狭哲六(当会会長)

私は、28年というながきにわたり、熊山遺跡を軸とし遺跡と関連する多くの古代遺跡とめぐりあうことができました。

私達の住む岡山県(古代吉備)には、実に多くの遺跡の存在を知ることができました。なかでも、吉井川東岸に遺存されている鶴山丸山古墳は、全国でも類を見ることの無い古墳であることに気づいたのである。

鶴山丸山古墳は今から75年前、熊山遺跡は今から73年前にそれぞれ地元の人々の手により発掘されているのです。

私は、1991年12月の著書(私家説)で、この両遺跡についての発掘の真相についてのべてきたのです。その後、20年というあいだ熊山回春への夢は断つことができず、**試行錯誤**の末、**稿**を新たにして自説を発表させていただいたのです。

それは **東アジアから見た日本**

知られざる古代吉備

日本古代史の源流を探る です。

本書は、前稿には不十分な面があるため、新たな古代史観を加え、両遺跡の「構築の意義」を明らかにしたのです。これまで、日本の学者・研究者の間では、全く取り上げてはなかったことなのです。

今おもえば、日本古代史の謎は、ここ**古代吉備**に存在していたのではないかとの思いを強くしたのです。

今後は**倭国の誕生と倭国の大乱**・女王国の元首**卑弥呼**についての研究に入りたいと思っています。加えて**中国五県・四国四県**の古墳より出土されている「**銅鏡**」について研究も手掛けてみたいと思っています。

(文責 若狭)

若狭会長が熊山遺跡の研究に取り組んだ経緯

昭和59年(1984) 熊山遺跡に出会う

昭和60年(1985) 地元の古老から熊山遺跡より取り出された遺物を知らされた。

昭和61年(1986) 遺物に付いての考証は独自に行う。

昭和62年(1987) 来日中の中国社会科学院教授の李学勤氏と接見し、遺物の写真集を提供した。
その後、李学勤教授より写真についての所見文を贈られる。

昭和62年(1987) 論著【古代国家形成のなぞー熊山とシルクロード】を発表

昭和63年(1988) 論著【先史日本の夜明けー熊山と東西交流史】を発表

昭和62年(1987) 論著【先史日本の夜明けー発見されたシュメール文明】を発表

平成元年(1989) 論著【先史日本の夜明けー熊山で見つかった「石」と「鋸】を発表

平成2年(1990) 論著【先史日本の夜明けー世界的に見た吉備・女王終焉の地】を発表

平成3年(1991) 論著【先史日本の夜明けー女王国邪馬台国の謎に迫る

国指定・熊山遺跡・鶴山丸山古墳発掘の真相】を発表

上記の著書「先史日本の夜明けー女王国邪馬台国の謎に迫る」は

米国議会図書館・ミシガン大学・トロント大学・ハーバード大学図書館

日本国会緒間・岡山県立図書館にも収蔵されている。

1993年には中国歴史考古誌「文物天地」に掲載され広く中国に紹介されました。

平成23年(2011) 論著【知られざる古代吉備】を出版